幼児の理解力と表現力（2）

～生き物や自然現象の音に対する身体表現の様相～
 ○坪井寿子・藤後悦子・磯友輝子・坂元昂
 （東京未来大学こども心理学部）
 キーワード：身体表現，幼児，自然現象，生き物

Abilities of recognition and expression in young children (2): body expression to sound from the nature.
 Hisako TSUBOI, Etsuko TOGO, Yukiko ISO, and Takashi SAKAMOTO
 (Child Psychology Department, Tokyo Future University)
 Key words: body expression, young children, nature, living thing

目 的

幼児期の子どもたちが，生き物や自然現象の音や言葉に対して，どのような身体表現を行うのかを探索的に検討する。

方 法

実験参加者は，関東地方の幼稚園の園児，3歳児，4歳児，5歳児クラス(各20～30名)である。課題は，さまざまな音(風の音や動物の鳴き声など)や言葉を聞いて，自由に身体表現をしてもらうものである。実験の流れは以下の通りである。まず，ライオン，カラス，セミ，水，風の音(鳴き声)については，最初に音を聞かせた後(音1)，自由に身体を動かしてもらった。その後子どもたちに何の音が尋ねた(言葉)。実験者が何の音であるかを示してから，再度同じ音を聞いて自由に体を動かしてもらった(音2)。続いて，キリンと太陽については，言葉のみを示して自由に身体表現を行ってもらった。

結果 と 考察

まず，年齢ごとに，その特徴をTable 1にまとめた。その結果，どの年齢の子ども達も元気に身体表現を行ったが，年齢が上がるにつれて，動きにバリエーションが出てきた。また，課題が進むにつれて，だんだん活発になってきた傾向がみられた。このような短期間な課題でも課題に対する慣れの効果が顕著であることが示された。また，音の内容によっていくつかの特徴が見られた。たとえば，セミに関しては，3歳・4歳児では手を後ろにピョンピョンとジャンプしている様子であったが，5歳児

の子どもに関しては，壁(柱の凸部)にしがみついて，木に止まっている様子を表現している子どもも見られた。また，水の音に関しては，5歳児においては，走り回る子どもだけでなく，泳ぐまねをする子どももいた。このような全体的な傾向が見られた一方で，個人差も見られた。それぞれの音が呈示されてからすぐに動き出す子どももいれば，他の子ども達が動いているのを見て，動き回る子どももいた。また，言葉のみを呈示した場合の身体表現では，5歳児は様々な動きが見られたものの，3歳児では戸惑いもあったようであった。

今回の結果から，子どもたちは，音や言葉という実態のないものだけで，イメージ豊かに表現活動をしていることが示された。身体表現の課題については，数量化をはじめ客観的にとらえることの難しさが指摘されている(古市 2007)が，子ども達の持っているエネルギーを発揮できるようにするにはどのような働きかけが必要なのかを考えていくことが大切な問題と言える。また，坂元(1985)においても課題の内容は異なるが，同様の幼児に身体表現を試みた資料があるので，時代の違いにおける幼児期の身体表現についても，今後さらに検討を重ねていきたい。

引用文献

古市久子(2007). 身体表現の発達に関する研究の現状と課題 *児童心理学の進歩*, 46 171-195.
 坂元昂 (1985). 幼児の世界をさぐる *フレーベル館*
 (Hisako TSUBOI, Yukiko ISO, Etsuko TOGO, & Takashi SAKAMOTO)

Table 1 各年齢ごとの身体表現の概要

		3歳児	4歳児	5歳児
ライオン	音1	ほとんど立っているのみ	ほとんど立っている	少し考えた後，その場で腕を動かす
	言葉	「かいじゅう」「ライオン」	「ライオン」「車」「バイク」	「ライオン」「かいじゅう」「トラ」
	音2	多数はそのまま，体を回している子もいる	ほとんど動かない，考えている様子	男児が主に手をバタバタしている
カラス	音1	手をバタバタしている子が少しずつ増える	手を動かしてだんだん跳ぶ子が増える	一斉に手をバタバタしている
	言葉	「カラス」	「カラス」「ライオン」	「カラス」
	音2	半分ほど，跳びながら手をバタバタさせる	少し考え込みながらピョンピョンしている	一斉に手を動かして，少し動き回る
セミ	音1	手を後ろにしてピョンピョン	ピョンピョン跳んでいる	壁(柱の凸部)にしがみついていた
	言葉	「セミ」	「セミ」	「セミ」
	音2	疲れるくらい，元気良く走り回る	より跳んでいる	多くの子どもがしがみついていた
水	音1	走り回る	立って回る，寝て回る子どももいる	寝そべって泳いでいる
	言葉	「川」「水」	「雨」「海(きれいな海)」	「川」「雨」「水」「池」
	音2	手を動かして走り回る	走ったり，床に寝て泳ぐまねの子どももいる	よりアクティブになる
風	音1	少し考えてから走り回る	走り回わり，一部は泳ぐまねの動作	ほとんどが一斉に流れるように
	言葉	「電車の音」「ふくろう」	「飛行機」「電車」「風」	「風」
	音2	とても元気そうに走り回っている	早いテンポで走り回っている	声を出して，色々な方向に走り回る
キリン	言葉	手を上にやって長い首のようにしながら，ピョンピョンしながら歩く	手を上にしている，4つ足のまね，手を後ろにしている	4つ足で歩く子どもがほとんど
太陽	言葉	2～3人はジャンプ，他は考え込んでいる	手を上にして，丸を作っている子どもたち。ごろごろしている子どもたちもいる	手を上にしてキラキラしている，くるくる回りながら歩く子どもたちもいる

ⁱ 研究は平成 20-22 年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(A)(代表：坂元昂 課題番号・20240071) の助成を受けて行われた。
ⁱⁱ ご協力いただいた栄光幼稚園の皆さん，東京未来大学の石井徳子さん，麻生菜奈さん，学生の皆さんに御礼申し上げます。